

都市再生整備計画(第6回変更)

菅田町いごと地区

神奈川県 横浜市

平成22年12月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	神奈川県	市町村名	横浜市	地区名	菅田町いど地区	面積	11.5 ha
計画期間	平成 18 年度 ~ 平成 22 年度	交付期間	平成 18 年度 ~ 平成 22 年度				

目標

- ・災害時の住民避難や緊急車両の通行可能な地域内アクセス道路を整備し、安全・安心なまちづくりを進める。
- ・公園を拡張し、人と動物の共生を進める全市的な交流啓発拠点である動物愛護センターを併設することで、地域の活性化を図る。

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

当地区は、横浜市神奈川区の西側、保土ヶ谷区及び緑区に隣接する、本市のほぼ中央部に位置しており、昭和45年に市街化調整区域に指定され、以来地域資源である緑地や農地が保全されてきた地域です。昭和40年代以降、本市の人口が急激に増加した高度成長期に、ベッドタウンとして開発された西菅田団地、菅田住宅、竹山団地、笹山団地などに囲まれた立地であるため、昭和54年に近隣公園「菅田いど公園」約2haを整備することで、緑豊かな環境を生かした地域コミュニティ形成の一端を担ってきた。

しかし、近年、市街化調整区域の規制緩和が図られるなか、高齢者支援に係る社会福祉施設の建設や公共事業用代替地としての宅地開発などにより、地区周辺の環境が著しく変化しているところである。

また近傍では環状2号線の開通や高規格道路の羽沢池辺線が事業化されるなど、交通利便性が飛躍的に向上している神奈川区の丘陵部に属している。横浜市都市計画マスタープラン・神奈川区プランのなかでも「身近な生活道路の安全性」「犯罪の起こりにくいまちづくり」「豊かな農地・緑地環境と市街化の共存を図り、調和したまちづくりを進めていく必要」が指摘されている。

課題

- ①道路幅員が狭く自動車の対面交通ができない。
 - ②人通りが少ないため夜間の一人歩きが危険でできない。
 - ③緊急車両の到着時間が遅い。
 - ④市街化区域との共存を図る積極的な土地利用がされていない。
 - ⑤地域の活性化に必要な条件である社会資本の整備が遅れている。
 - ⑥捨て猫等のふんや鳴き声、飼い方に基因する地域の問題の多発。
- 将来ビジョン(中長期)

地域内アクセス道路及び公園の拡張整備により地区の交通利便性が高まり公園利用者が増えるとともに、市内各方面から動物愛護センター(仮称)への研修参加者が来訪し、地域のないし全市的な交流が活発におこなわれ、地域の活性化が実現している。これは当地区において、道路、公園、地域交流センター等を総合的に整備することにより、活発な交流、活力ある都市活動、災害に強いまちづくりを進めるものである。(都市再生基本方針の第二、3の重点分野)

目標を定量化する指標

指標	単位	定義	目標と指標及び目標値の関連性		目標値	
			従前値	基準年度	目標年度	目標年度
緊急車両の到着時間	分	消防車緊急出動時の走行時間	12分	18	7分	23
歩行者	人数	整備道路の歩行者数	50人/日	18	100人/日	23
イベントの開催	回数	公園内で行われるイベント開催の回数	2回	18	4回	23
動物愛護精神の理解度	割合	適正飼育理解者の増加割合	1.0	18	1.1	23

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<ul style="list-style-type: none"> ・近隣公園から地区公園への機能更新等によるコミュニティの充実 	(基幹事業)いでと公園拡張事業 (基幹事業)地域交流センター整備事業
<ul style="list-style-type: none"> ・地区内アクセス道路機能の充実 ・地区外幹線道路への連結による全市的ネットワークへの参入 	(基幹事業)道路改良事業
<ul style="list-style-type: none"> ・地域内ないし全市的な交流の核となる施設を併設し、地域の活性化を推進 	(提案事業)動物愛護センター整備事業
その他	

都市再生整備計画の区域

菅田町いでと地区(神奈川県横浜市)

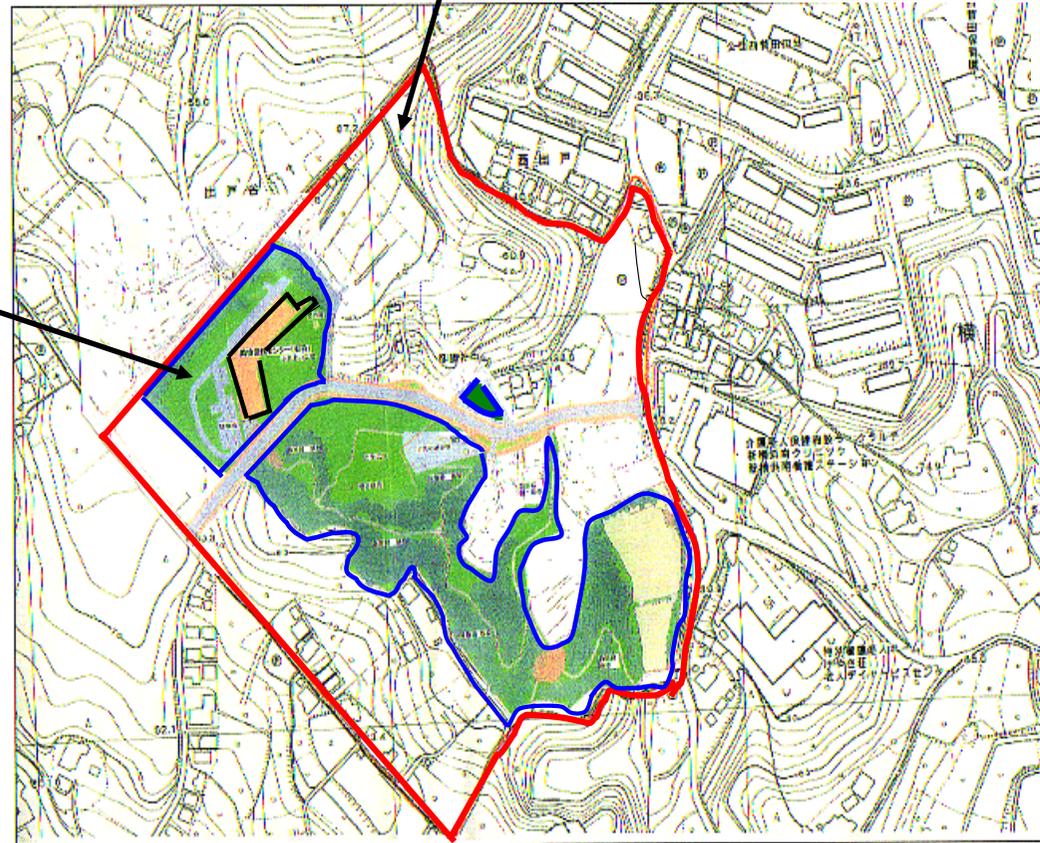
面積 11.5ha

区域 横浜市神奈川区菅田町の一部

位置図



菅田町いでと地区(11.5ha)



縮尺: 1/5000

菅田町いごと地区（神奈川県横浜市） 整備方針概要図

目標	・災害時の住民避難や緊急車両の通行可能な地域内アクセス道路を整備し、安全・安心なまちづくりを進める。 ・公園を拡張し、人と動物の共生を進める全市的な交流啓発拠点である動物愛護センターを併設することで、地域の活性化を図る。	代表的な指標	緊急車両の到着時間	(分)	12分	(18年度)	→	7分	(23年度)
			歩行者	(人数)	50人/日	(18年度)	→	100人/日	(23年度)
			イベントの開催	(回数)	2回	(18年度)	→	4回	(23年度)
			適正飼育理解者の増加割合	(割合)	1.0	(年度)	→	1.1	(年度)

